

管きよ工事 完了図作成基準

令和8年4月

東京都下水道局

管きょ工事 完了図作成基準

目 次

1	適用.....	1
2	完了図作成.....	1
3	系統図.....	4
4	線路詳細図.....	10
5	構造図.....	16
6	完了図作成例.....	17

1 適用

本基準は東京都下水道局が発注する管きょ再構築工事及び改良工事を対象とする。

【解説】

本書は、東京都下水道局における管きょ再構築工事及び改良工事の完了図に関する仕様を定めたもので、下水道法に定められている公共下水道台帳（施設平面図）を効率的に作成するために、設計図面の作成に関する手引きや基準類を基に作成したものである。

なお、本書に規定していない事項については、下記の基準などに従う。

- (1) 土木工事標準仕様書（東京都下水道局）
- (2) 東京都下水道設計標準（東京都下水道局）
- (3) 管きょ再構築設計の手引き・人孔再構築設計の手引き（東京都下水道局）
- (4) 枝線再構築製図基準（東京都下水道局）

2 完了図作成

工事完了図は、基本的な事項を遵守して作成する。

【解説】

完了図の作成上の基本事項を以下に列記する。

- (1) 完了図は土木工事標準仕様書に基づき、電子データでの納品とする。
- (2) 完了図右下に受注者の会社名、現場代理人氏名を記載する。
- (3) 監督員は完了図の確認及び承諾を行った後、全ての完了図に「決定済」印を押印する（図1）。なお、日付は完了年月日とする。
- (4) 水準基標面は東京湾平均海面（T.P.）とする。



図1 「決定済」印の例

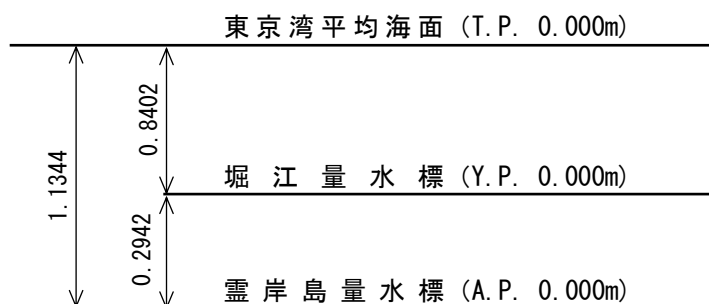
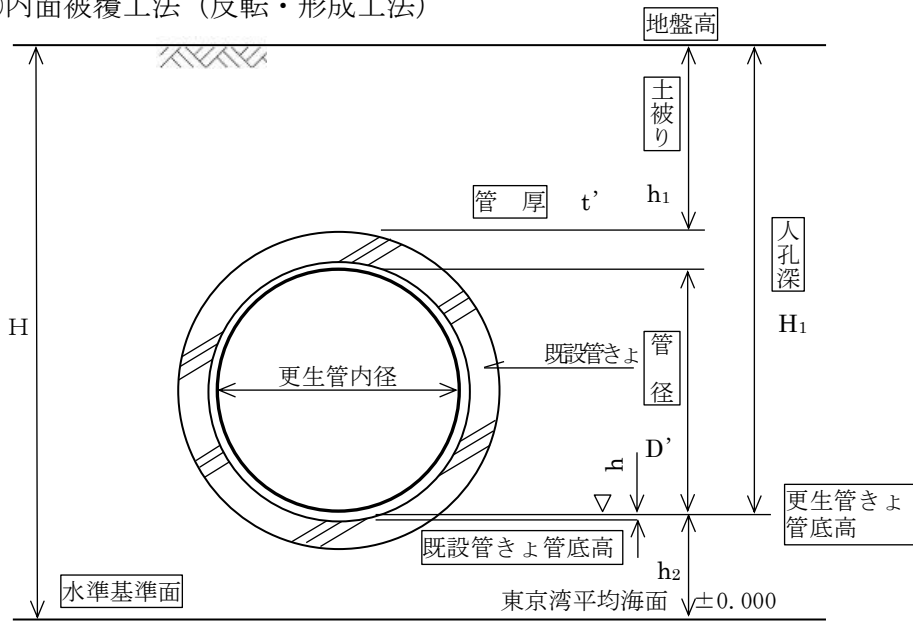


図2 各水準基標面の関係

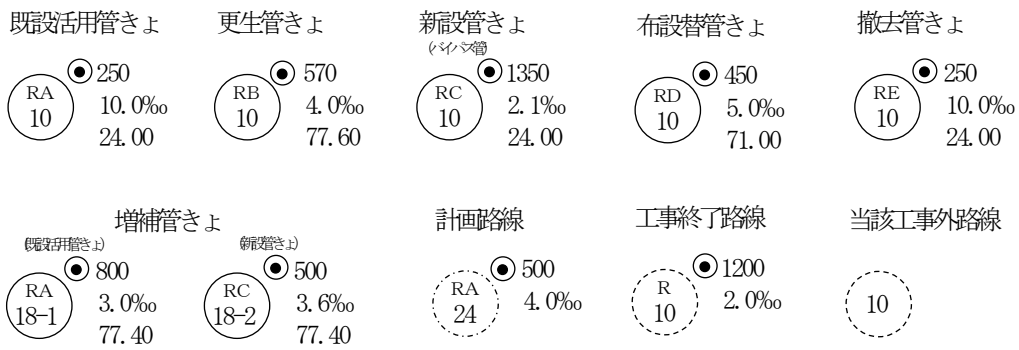
②内面被覆工法（反転・形成工法）



管底高の差 : h (既設管きよと更生管きよの管底高の差)

図 4 水準基標面と地盤高、管底高、土被、人孔深の関係

(5) 路線番号及び管きよの表示は下記のとおりとする。



注 1) 幹線表示は二重線とする。

注 2) 更生管きよ (RB) は、更生後の管きよ断面を記載する。

(6) 完了図記載の数字は表 1 のとおりである。

表 1 完了図に記載する単位及び小数位

種 別	単位	小数位	種 別	単位	小数位
延長、幅員、深等	m	2	計画管底高	m	3
構造図寸法	mm	0	土被り	m	2
管きよ勾配	%	1	管きよ形状	mm	0
基標高	m	3	人孔、L形側溝の形状	cm	0
地盤高	m	2	ます深	m	(0.2 刻み)
管底高	m	3			

注 1) 小数位未満は、四捨五入をもって記載する。

注 2) 線路延長については、小数第 2 位まで記入し、0 か 5 に丸める。

(二捨三入、七捨八入)

3 系統図

系統図は、当該工事全区域の下水道管路系統を示す平面図で、完了した工事の現場案内図を兼ねるものである。

【解説】

- (1) 系統図は、東京都公共下水道台帳管理図を利用して作成する。
- (2) 縮尺は、2,000分の1とする。
- (3) 記入事項
実施路線の位置と、これに関連する路線を明示するとともに、工事区域内の主要物件を示す必要がある。設計図に記載されたもののうち、施工区分、道路復旧方法、路面覆工、仮設工を除いた施工方法、使用材料等について記載する。文章は過去形で記載する。
 - 1) 管理図番号、小図画番号（メッシュ番号）、図画割線
 - 2) 区名、町名、丁目、番地街路名、河川名、橋梁名、公共施設名等
 - 3) 路線、人孔、防潮扉室、吐口、幹線及び各々の番号等
 - 4) 流れの方向、線の記号、管径及び形状、勾配、延長、方位等
 - 5) 凡例、水準基標、基準点、案内図
 - 6) 占用完了数量集計表、工事内管きょ集計表、工事内管きょ番号表、工事内人孔番号表、柵・取付管一覧表
 - 7) 占用者名、下水道番号、都道・国道番号、工期、占用許可番号、占用許可年月日等
 - 8) 区界、その他必要事項
- (4) 管理図番号、小図画番号（メッシュ番号）、図画割線は図5のとおり記入する。
- (5) 路線番号は原則として設計で作成した設計系統図の番号とする。
- (6) 凡例は、表2を標準とし、その他の凡例については東京都公共下水道台帳凡例による。設計図において、提案路線とされている箇所は、実施路線に修正する。記入しない他企業埋設物の凡例は記載しない。
- (7) 「注）管きょ布設及び人孔、ます、構造等特に設計図に記入のないものについては、東京都下水道設計標準によった。」という語句を完了図中央下に記入する。
- (8) 水準基標・基準点は、当該工事区域に最も近いものを使用し、必要事項を記入する。なお、水準基標値は、「水準基標測量成果表」（建設局公表）による。
- (9) 系統図は、上を北方向にすることを原則とする。また、施工区域が離れている、2箇所以上の提案路線区域の完了図を作成する場合は必ず方位をそろえ、主要路線は互いに関連づけて記入する。
- (10) 現場説明及び現場案内図において施工場所を容易に知ることができるように、目標になる建物、橋梁名、公共施設名等を必ず記入する。
- (11) 街路（呼称道路名）、鉄道を記入した場合、方向先を「至〇〇」として記入する。
- (12) 公道（実線）と私道（破線）を分けて記入する。
- (13) 都市計画道路、河川区域、河川保全区域等は、一点鎖線で明示する。

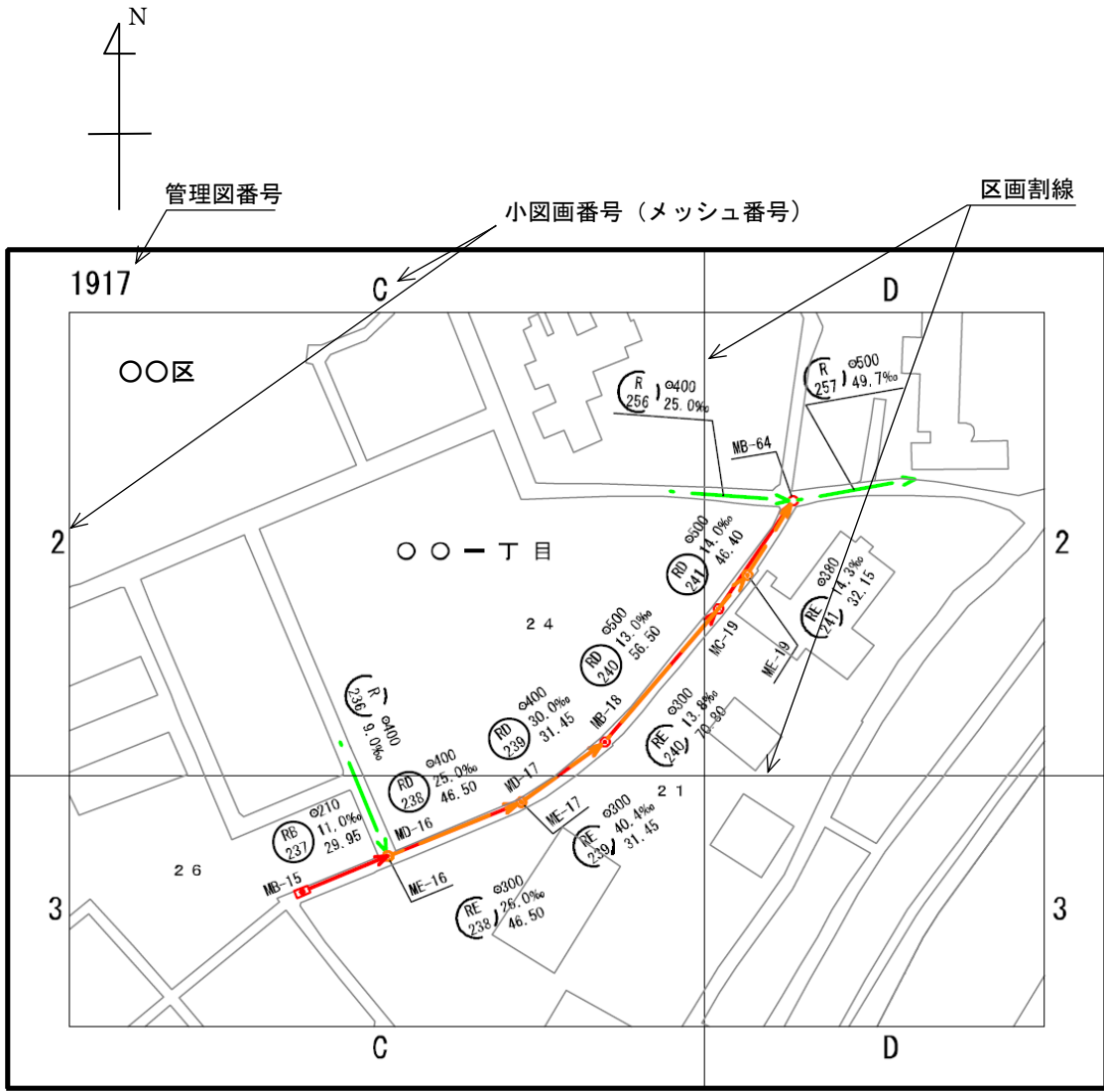
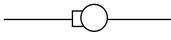
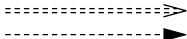
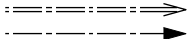
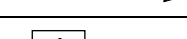













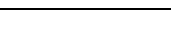
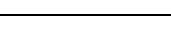



図5 管理図番号、小図画番号（メッシュ番号）

表2 凡例

記号	名称	記号	名称
 幹線  枝線	実施路線		副管取付
 幹線  枝線	既設路線		汚水ます及び取付管
 幹線  枝線	計画路線		小型汚水ます及び "
	矩形人孔 内法 90×60		特殊汚水ます及び "
	円形人孔 内径 90		既設雨水ます及び "
	楕円形人孔 内径 120×90		浸透雨水ます (雨水抑制二連ます)
	円形人孔 内径 120		宅地排水用雨水 貯留浸透ます
	" " 150		光ファイバーケーブルます
	" " 180		既設汚水ます撤去
	" " 200		管 接 合
	" " 220		既設汚水ます活用
	都型組立人孔 内法 90×60		既設汚水ます改造
	" 内法 120×60		新設汚水ます
	" 内法 120×80		汚水ます設置替
	" 内法 120×90		既設汚水ます撤去
	組立円形人孔内径 90		
	" 内径 120		しゃ集汚水管
	" 内径 150		舗装境界
	" 内径 180		区 境
	" 内径 200		町境、丁目境
	特殊人孔		
	分水人孔		
	振分人孔		

- (注) 1. 計画人孔の場合は一点鎖線となる。既設人孔の場合は破線で表示する。
 2. 道路管理者境界線を記載し、記号を付ける。

(14) 占用完了数量集計表

当該工事における再構築管きよ、撤去管きよ、設置・撤去人孔、設置・撤去汚水樹の4種類について、占用種別の数量集計表を作成する。

(15) 工事内管きよ集計表

当該工事における管きよの整備対策別（表5）及び管径別の延長を記入する。

表3 占用完了数量集計表

完了数量					
占用	行政区	目的	管種	管径(mm)	延長(m)
都道	〇〇区	新設	鉄筋コンクリート管	400	77.95
都道	〇〇区	新設	鉄筋コンクリート管	500	102.90
計					180.85
都道	〇〇区	改良	〇〇〇工法	210	2.95
計					2.95
区道	〇〇区	改良	〇〇〇工法	210	27.00
計					27.00

占用	行政区	目的	管種	管径(mm)	延長(m)
都道	〇〇区	撤去	陶管	300	148.75
都道	〇〇区	撤去	陶管	380	32.15
計					180.90

占用	行政区	人孔形状	設置	撤去
都道	〇〇区	円形人孔内径90		3
都道	〇〇区	組立円形人孔内径90	3	
計				3

占用	行政区	樹形状	設置	撤去
国道	〇〇区	小型汚水樹	1	
計			1	0
都道	〇〇区	汚水樹		7
都道	〇〇区	小型汚水樹	10	
計			10	7
区道	〇〇区	汚水樹		2
区道	〇〇区	小型汚水樹	2	
計			2	2

表4 工事内管きよ集計表

工事内管きよ集計表			
管きよの名称	施工年度	管径 (mm)	延長 (m)
既設活用管きよ	—	250	124.70
既設活用管きよ	—	350	152.80
既設活用管きよ	—	400	58.60
既設活用管きよ	—	450	70.05
既設活用管きよ	—	500	136.30
既設活用管きよ	—	600	144.90
既設活用管きよ	—	700	196.15
既設活用管きよ	—	800	139.80
既設活用管きよ	—	900	57.30
既設活用管きよ	—	1000	117.05
既設活用管きよ	—	1100	82.25
既設活用管きよ	—	1110	35.10
計			1315.00
更生管きよ	2005	230 (250)	44.90
更生管きよ	2005	280 (300)	32.00
更生管きよ	2005	320 (350)	45.00
更生管きよ	2005	360 (400)	61.95
更生管きよ	2005	370 (400)	17.95
更生管きよ	2005	460 (500)	48.00
更生管きよ	2005	640 (700)	24.00
更生管きよ	2005	820 (1000)	34.10
更生管きよ	2005	1100 (1200)	23.85
小計			331.75
合計			331.75
布設替管きよ	—	300	19.40
布設替管きよ	—	700	62.15
小計			81.55
総計			1728.30
撤去管	2005	400	19.40
撤去管	2005	700	62.15
小計			81.55
合計			81.55

注1) 施工年度とは、当初管きよを布設した年度である。

注2) 年度順、管径順に記載する。

注3) ()内は、更生前の管種及び管径を記入する。

注4) 総計は、更生管きよ、布設替管きよ、新設管きよ（増補管きよ及びバイパス管きよ）の計である。

表5 管きよの整備対策別の記号

記号	整備対策
RA	既設活用管きよ
RB	更生管きよ
RC	新設管きよ（増補管きよ及びバイパス管きよ）
RD	布設替管きよ
RE	撤去管きよ

(16) 工事内管きよ番号表

当該工事における再構築管きよによる番号表及び撤去管きよによる番号表の2種類を作成する。

- ・内面被覆工法で施工した場合は、工事内容欄に工法名を記入する。
- ・モルタル充填など残置とした撤去管きよは、工事内容欄に工法名を記入する。
- ・反転・形成工法の更生管径は、設計図ではB種材管径となっているので、A種材を使用した場合はA種材管径に修正して記載する。

表6 工事内管きよ番号表

工事内管きよ番号表（再構築下水道管きよ）						
路線番号	区分	施工年度	管種	管径 (mm)	延長 (m)	工事内容
RA-1	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	350	51.10	
RA-2	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	500	41.55	
RA-3	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	500	49.70	
RB-4	更生管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	460	48.00	〇〇〇工法
RA-5	既設活用管きよ	2005	硬質塩化ビニル管	250	59.40	
RD-6	布設替管きよ	—	硬質塩化ビニル管	300	19.40	90° 砂基礎 (ii)
RA-7	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	700	58.90	
RA-8	既設活用管きよ	2005	硬質塩化ビニル管	350	59.95	
RB-9	更生管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	360	29.90	〇〇〇工法
RA-10	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	800	41.80	

工事内管きよ番号表（撤去管）						
路線番号	区分	施工年度	管種	管径 (mm)	延長 (m)	工事内容
RE-6	撤去管	2005	鉄筋コンクリート管	400	19.40	発泡モルタル充填 〇m ³ 残置
RE-23-1	撤去管	2005	鉄筋コンクリート管	700	57.75	
RE-23-2	撤去管	2005	鉄筋コンクリート管	700	4.40	
合計					81.55	

(17) 工事内人孔番号表

当該工事における再構築人孔による番号表及び撤去人孔による番号表の2種類を作成する。組立人孔を新設した場合には、工事内容欄に器材名を記入する。

表7 工事内人孔番号表

工事内人孔番号表 (再構築人孔)					
人孔番号	区分	人孔形状	SEMISS番号	人孔深 (m)	工事内容
MB-1	改造	円形人孔内径90	00002B032	1.70	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-2	改造	円形人孔内径90	00003B004	2.13	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-3	改造	円形人孔内径90	00003B005	2.29	コンクリート蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-4	改造	円形人孔内径90	00003B006	2.91	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-5	改造	組立円形人孔内径90	00004C026	1.83	
MB-6	改造	組立円形人孔内径90	00003C043	2.45	既設インバート改造
MB-7	改造	円形人孔内径150丁	00003C044	4.56	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-8	改造	組立円形人孔内径90	00004B037	2.66	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-9	改造	円形人孔内径90	00004B038	1.83	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-10	改造	円形人孔内径150丁	00003B007	4.38	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-11	改造	円形人孔内径150丁	00004B039	3.29	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-12	改造	円形人孔内径90	00004B040	2.85	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-13	改造	円形人孔内径90	00004B041	2.65	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-14	改造	円形人孔内径200	00004B042	2.72	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-15	改造	円形人孔内径150丙	00004B043	2.66	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-16-1	改造	円形人孔内径180	00004B044	2.42	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-17	改造	組立円形人孔内径90	00004C027	2.24	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-18	改造	組立円形人孔内径90	00004B031	2.41	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-19	改造	組立円形人孔内径90	00004B032	2.35	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-20	改造	円形人孔内径90	00004B033	2.37	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-21	改造	円形人孔内径90	00004B034	2.05	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-22	改造	円形人孔内径90	00004B035	2.12	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MD-23-1	新設	組立円形人孔内径120B	00004B037	2.62	組立マンホール (〇〇〇)

工事内人孔番号表 (撤去人孔)					
人孔番号	区分	人孔形状	SEMISS番号	人孔深 (m)	工事内容
ME-23-1	撤去	円形人孔内径120丙	00004B036	2.74	

(18) 汚水柵・取付管一覧表

当該工事における汚水柵及び取付管の一覧表を作成する。取付管内面被覆工法等で施工した場合は、管種欄に工法名を記入する。

表8 汚水柵・取付管一覧表

汚水柵・取付管一覧表													
図面番号	人孔番号 又は 路線番号	接続位置 (m)	占用幅 (m)	汚水柵				取付管					
				柵番号	柵の種類		樹深さ (m)	工事内容	既設		新設又は布設替え		工事内容
					既設	新設又は取替え			管径	管種	管径	管種	
6/20	RA-8	25.70	6.60	8-3A	汚水柵内径50		1.19		200	硬質塩化ビニル管			
6/20	RA-8	40.30	6.60	8-6A	汚水柵内径50		1.13		200	硬質塩化ビニル管			
7/20	RA-10	14.20	7.15	10-2A	円形人孔内径90		2.06		200	鉄筋コンクリート管	190	〇〇〇工法	改良 L=7.15
7/20	RA-10	17.80	8.55	10-4A	円形人孔内径90		2.85		200	鉄筋コンクリート管	190	〇〇〇工法	改良 L=8.55
7/20	RA-10	34.85	8.55	10-7A	円形人孔内径90		2.32		200	硬質塩化ビニル管			
7/20	RA-10	40.15	7.15	10-8A	円形人孔内径90		2.12		200	鉄筋コンクリート管	200	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=7.15
7/20	RA-11	6.80	8.45	11-2A	円形人孔内径90		2.06		250	硬質塩化ビニル管			
7/20	RA-11	16.20	8.45	11-4E	柵無し (汚水)				150	陶管			撤去 L=8.45

4 線路詳細図

線路詳細図の作成には、次の事項によるものとする。

- (1) 管きよ平面図は、実施路線及びその周辺の詳細を示し、公共下水道台帳「施設平面図」を調製する上で必要な事項を記載し、道路種別などを具体的に明記する。完了図には、他企業の埋設物は記載しないこと。
- (2) 管きよ縦断面図は、実施路線の縦断関係を示すもので、地盤高、管底高、管勾配及び土被り等の関係に加えて、再構築下水道管きよの施工方法も明記する。
また、実施路線を横断、又は縦断的に近接する埋設物、河川、軌道等が存在する場合は、これらの詳細（実施路線との離隔等）も明示する。

【解説】

(1) 共通事項

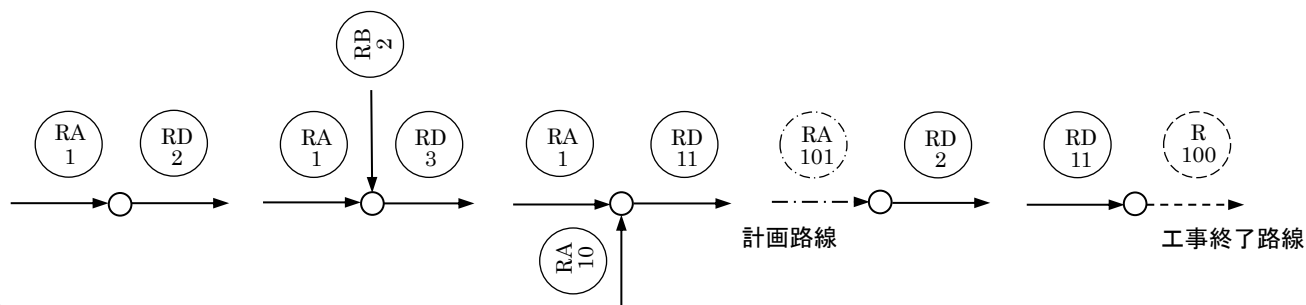
1) 縮尺

平面図は、500分の1を原則とする。縦断面図は、縦を100分の1とし、横を平面図に合わせる。

2) 管きよの流水方向は、系統図と同一記号とし路線の終点には矢印を記入する。

3) 路線の表示方法は図6のとおりとする。なお、本線の左側から流入する路線の旗上げは左側とし、右側から流入する路線の旗上げは右側とする。

平面図



縦断面図

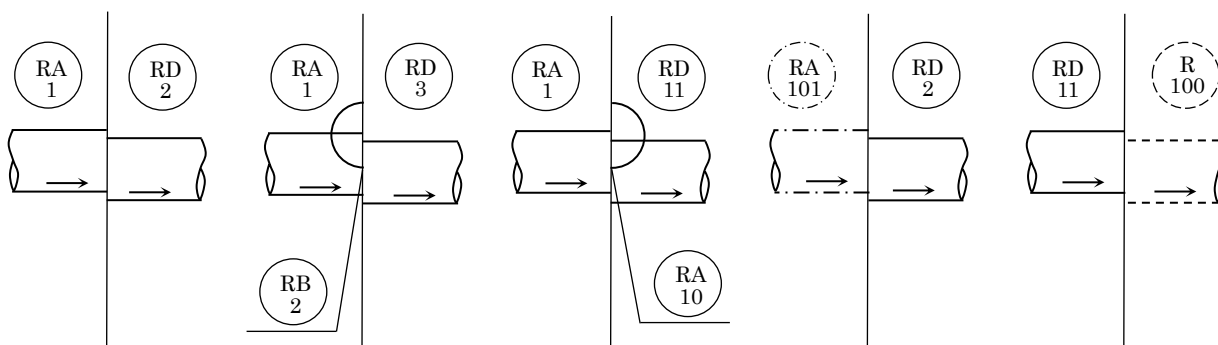


図6 路線の表示方法

(2) 平面図

1) 記入事項

- ① 町名、丁目、番地、街路名、河川名、橋梁名、公共施設名等
- ② 管きよ、人孔、防潮扉、吐口、ます及び同取付管等
- ③ 流れの方向、路線名、形状、勾配、延長、曲線部における始点 (B. C) 終点 (E. C)・交角 (I. A)・曲線半径 (R)・接線長 (T. L)・曲線長 (C. L)・中央縦距 (S. L)、人孔の記号・番号、座標値等
- ④ 国道、都道、区道別、舗装種別、道路幅員、占用位置、道路指定別、私道等
- ⑤ 他企業埋設管は記入しない。ただし、他企業及び当局の地下埋設物の原因により、伏越し管となった場合は、別途記入する。平面図に舗装種別の記入は必ずしも要しない。
- ⑥ 既設管きよ (更生管きよは除く) は、破線で明示する。
- ⑦ 都市計画路線、河川区域、河川保全区域及び海岸保全区域は、一点鎖線で明示する。
- ⑧ その他必要と思われる事項

2) 人孔部のオフセット (図 7(a)参照)

- ・オフセットは、公私境界より計測し表示する。
- ・起点人孔、交差点内人孔については、原則として主要構造物から 3 方向のオフセットを表示する。
- ・中間人孔については、主要構造物から 2 方向からのオフセットを表示する。

(注) 蓋の中心ではなく、管きよの会合点とする。(図 7(b)参照)

- 3) 道路幅員及び占用位置を必ず記入する。また、記入位置は、極力スパンの上流、下流両方に記入する。(私道も含む)
- 4) 私道及び私道取入管等の記載を正確に図示する。
- 5) 土留材残置・特殊土留工法 (SMW等) の図示は図 8 のとおりとし、使用目的の対象建築物・構造物名、残置高さ (上端) 等も明記する。なお、縦断面図も同様とする。

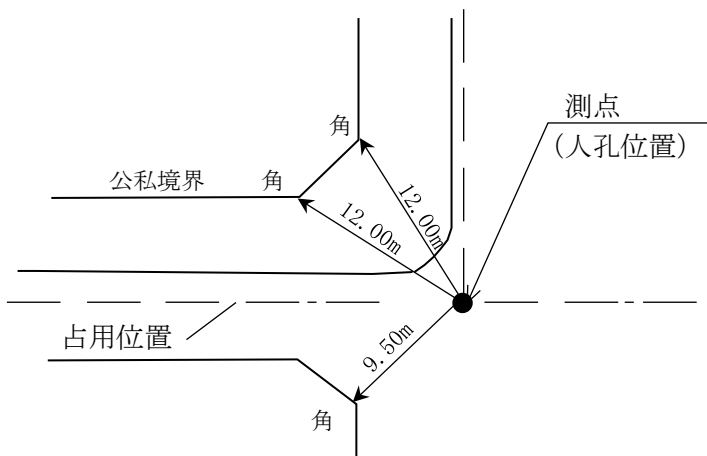


図 7(a) 主要構造物からのオフセット計測例

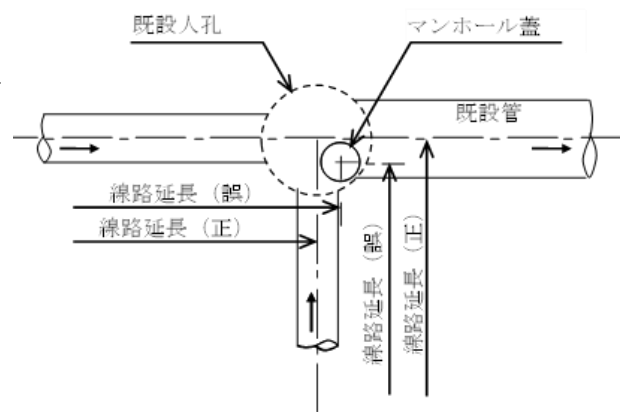


図 7(b) 管きよの会合点

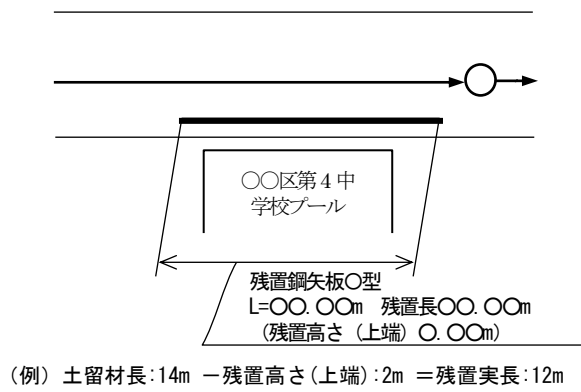


図8 土留材残置の記入例

- 6) 河川及び公共溝きよの流行方向は必ず明記する。
- 7) 底部有孔汚水ますと標準汚水ますは、完了図上区別しない。
- 8) 特殊な取付管（人孔取付管、連結ます、既設ます取付等）は完了図表示をする。

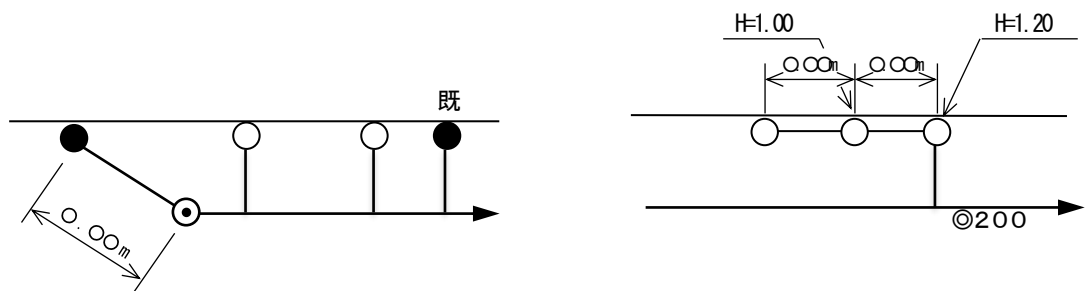


図9 平面図の記入例

(3) 縦断面図

1) 記入事項

- ① 前項(2)1)③記入事項
- ② 流入管取付位置、管径及び管底高
- ③ 人孔、その他必要箇所管底高、土被り、地盤高、曲線
- ④ 人孔の形状・位置・深さ、副管の形状及び高さ等
- ⑤ 横断する地下構築物（埋設物）、他企業埋設管は記入しない。ただし、他企業及び当局の地下埋設物の原因により、伏越し管となった場合は、別途記入する。
- ⑥ 布設替え対象となる既設管の位置は破線で表示する。
- ⑦ シールド工事等で曲線施工がある場合は、縦断面図の最下段に曲線表示をする。
- ⑧ 管理図番号
- ⑨ その他必要と思われる事項

2) 枠の形状は下記のとおりとする。

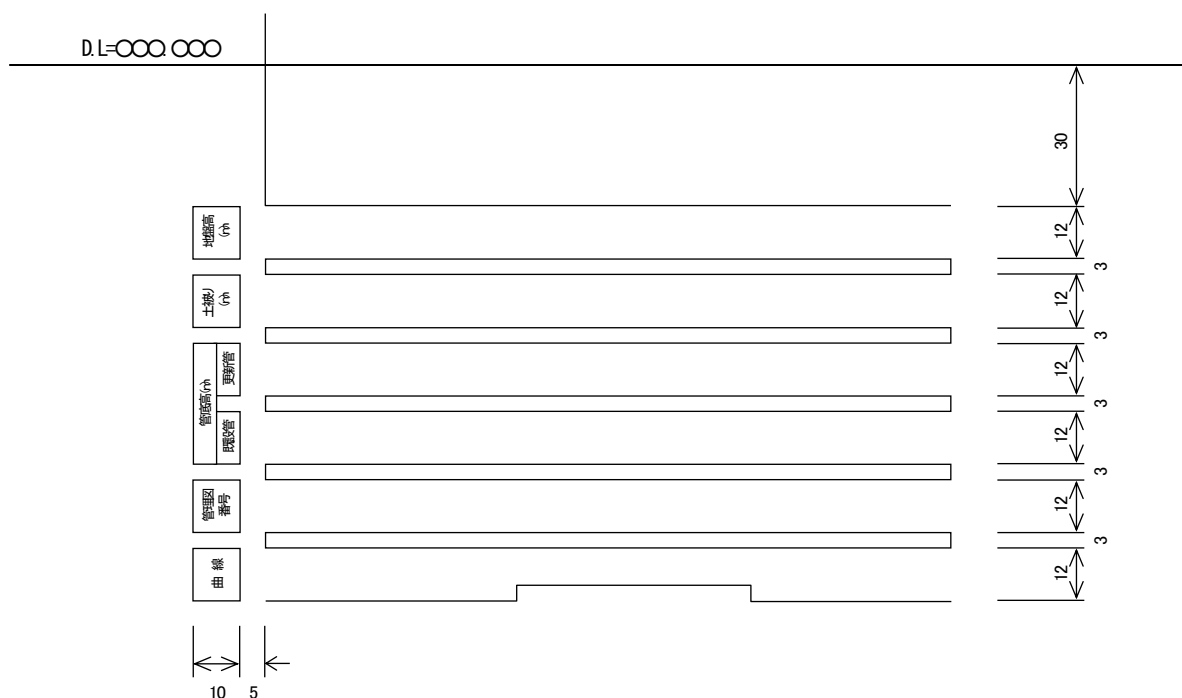


図 10 枠の形状

- 注 1) 曲線の欄は、曲線施工を行う場合のみ作成する。
- 注 2) 平面図の位置に合わせて真下に製図し、見易く配慮する。
- 注 3) 基準線は、「D. L. ±〇〇. 〇〇〇」と記入し、縦断面図がおさまるように、適当な高さを記入する。なお、曲線部における始点 (B.C)、終点 (E.C) の番号の順番は、発進側から昇順とする。
- 注 4) 同一占用位置に上下する管きよを布設する場合、又同一道路に二本以上の管きよを布設する場合等は、分流式の場合を除き、各々縦断面図に図示するのを原則とする。
 なお、上・下に管を布設する場合で占用位置がほぼ一致している時は合併して図示してもよい。
- 注 5) 地表勾配の変化する所は、人孔を設置しない場合でも、必ず地盤高を測定し土被りが十分とれるか否か検討し、図示する。
- 注 6) 管底高の記入分けは、以下のとおりとする。
- 注 7) 反転形成工法の場合、管底高を計算する際には、呼び径の厚みではなく、最大厚みを使用する。反転・形成工法の更新管径は、設計図では B 種材管径となっているので、A 種材を使用した場合は A 種材管径に修正して記載する。

表 9 管底高の記入分け

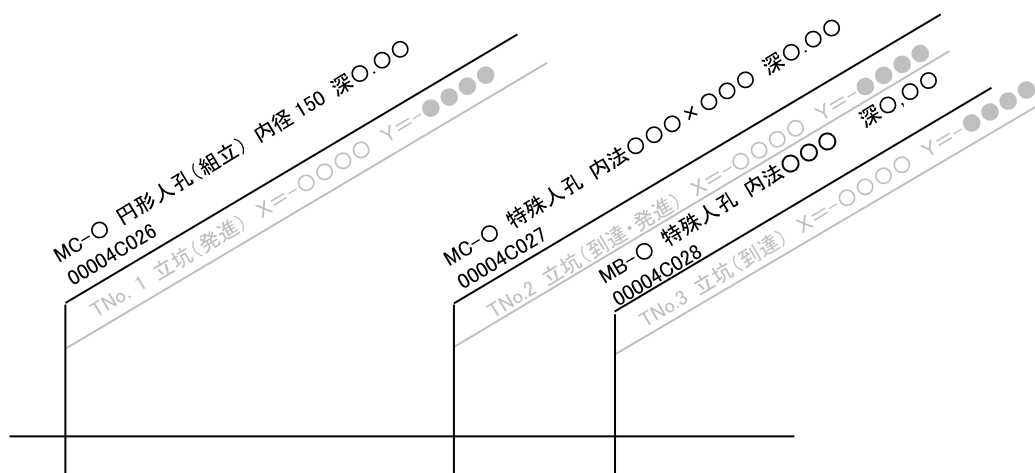
	更新管	既設管
既設活用管きよ (R A)	—	○
更生管きよ (R B)	○	○
新設管きよ (R C)	○	—
布設替管きよ (R D)	○	—
撤去管きよ (R E)	—	○

3) 鉄蓋の記入方法

T-20 対応は記入しないが T-25 対応は「T-25」と記入する。なお、コンクリート蓋の場合はコンクリート蓋であることが分かるように明示する。また、特殊人孔又は特殊蓋使用の場合、形状、寸法等を記入する。

- 4) 標準人孔に泥溜を造った場合は、特殊人孔扱いとするが、その表示は取り出しの旗上げに「No. ○円形人孔内径○○深○. ○○泥溜 0.50」等とする。
- 5) 副管高は上流管底と下流管底の管底差とする。副管高と施工高に差がある場合は、施工高を () 書きとする。
- 6) 管種及び基礎種別はすべて記載する。
- 7) 特に工法を指定する場合は、「○○○工法」等のように、工法名を記載する。
- 8) 推進・シールド工法の立坑表示は記載しない。
- 9) 私道排水設備取入管は、実線で表示し、引出線により「内径、勾配、路線延長」を記入する。
- 10) 既設管きよを撤去するときは、管径・管種及び延長を図示する。
- 11) 更生管きよ (R B) 路線は、例えば、内面被覆工法 (管きよ内面被覆工法-○○工法) のように記入する。

- 12) 縦断面図の旗上げに記載する人孔番号は、設計時点の番号と取得した SEMIS 番号を並記する。



(注) : 1. 旗の角度は、30° を標準とする。

2. (組立) は組立人孔を示す。
3. 矩形人孔の表記は「特殊人孔 内法L (延長方向) × B (幅)」とする。
4. 立坑表示は、記載しない。
5. 旗上げに、設計時点の番号と取得した SEMIS 番号を並記する。

図 11 縦断面図の旗上げ等の記入例

5 構造図

構造図には、管きよの構造図、特殊人孔構造図等がある。

【解説】

構造図は、東京都下水道設計標準に記載のない構造物等の詳細を示した完了図である。

- (1) 構造図は、平面図、断面図、詳細図から構成される。
- (2) 縮尺は、10分の1から100分の1の範囲を原則とする。
- (3) 築造物ごとに名称及び縮尺を記入し、図示する。類似した築造物が2つ以上ある場合は、標準構造図に代表することができる。

この場合、寸法材料等は一覧表にして構造物別に明示する。

- (4) 断面の切り方は、その築造物の構造が具体的に表現できるように工夫する。
- (5) 特殊人孔の中心は、路線延長との関係を明確に表現できるように定め、構造図に明記する。

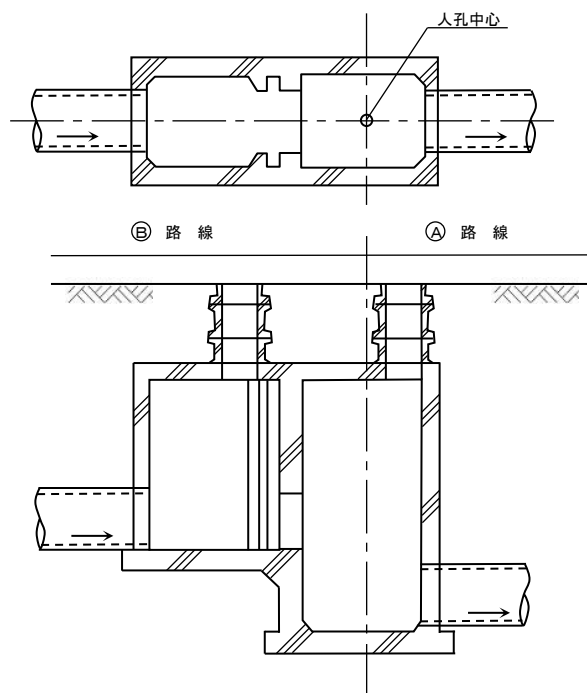


図 12 構造図の記入例

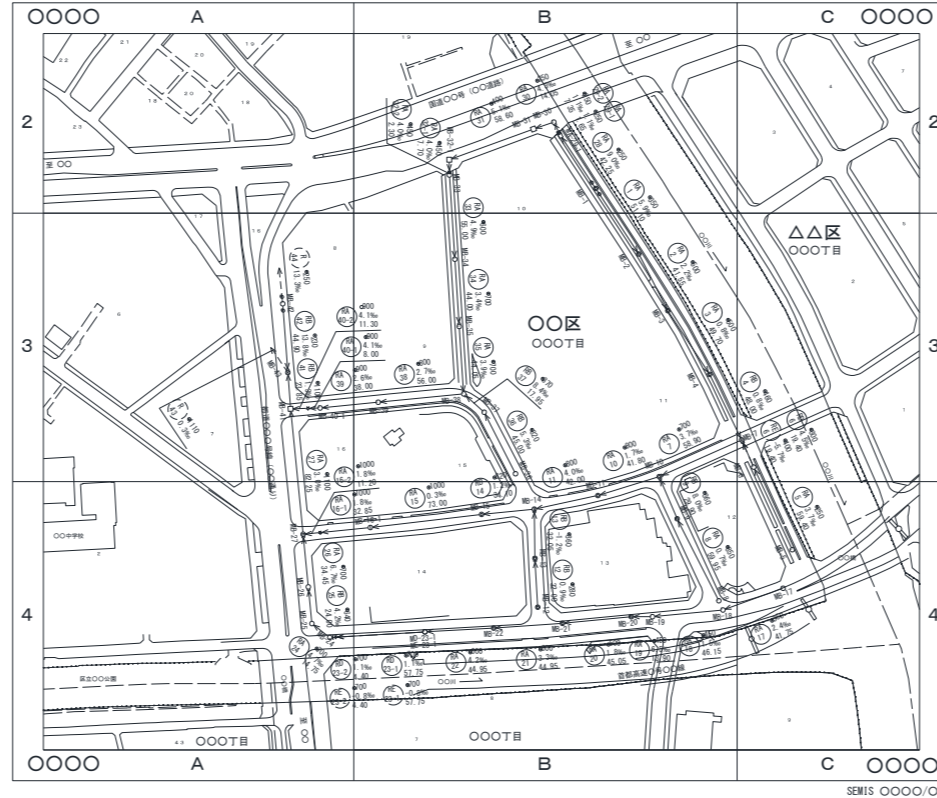
6 完了図作成例

系統図及び線路詳細図の記載例を図 13 から図 17 に示す。

※朱書きは設計図から完了図を作成する際の追記・削除する箇所を示す

系統図 縮尺 1:2000

凡例	
記号	名称
--->	既設路線 (枝線)
==>	既設路線 (幹線)
--->	実施路線 (枝線)
--->	撤去路線 (枝線)
□	矩形人孔内法 90×60
○	円形人孔内径 90
○	円形人孔内径 120丙
○	円形人孔内径 120丁
○	円形人孔内径 150
○	円形人孔内径 180
○	円形人孔内径 200
○	円形人孔内径 220
□	特殊人孔
△	人孔無し
□	都型組立矩形人孔内法 120×60
○	組立円形人孔内径 90
○	組立円形人孔内径 120A
○	組立円形人孔内径 120B
○	組立円形人孔内径 150
○	撤去円形人孔内径 120丙
○	副管取付
○	掘分人孔
○	既設取付管
○	実施取付管
○	撤去取付管
○	既設雨水樹
○	汚水樹
○	小型汚水樹
○	撤去汚水樹
○	撤去小型汚水樹
○	撤去樹無し (汚水)
○	既設汚水樹活用
A	汚水樹新設
C	汚水樹撤去・新設
D	既設汚水樹撤去
E	既設汚水樹撤去
---	電話線
---	水道管
---	ガス管
---	電力線
---	共同溝
---	舗装境
---	道路管理境



完了数量				
占用	行政区	目的	管種	管径(mm) 延長(m)
都道	〇〇区	新設	鉄筋コンクリート管	400 77.56
都道	〇〇区	新設	鉄筋コンクリート管	500 102.99
計				180.55
都道	〇〇区	改良	〇〇〇工法	210 2.95
計				2.95
区道	〇〇区	改良	〇〇〇工法	210 27.00
計				27.00

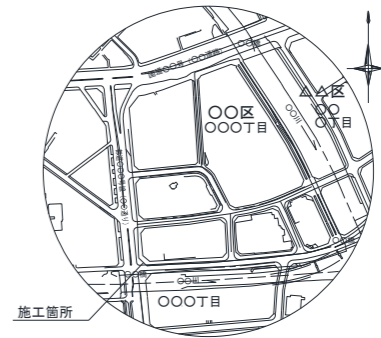
占用	行政区	人孔形状	設置	撤去
都道	〇〇区	円形人孔内径90	3	3
都道	〇〇区	組立円形人孔内径90	3	3
計			3	3

占用	行政区	樹形状	設置	撤去
都道	〇〇区	小型汚水樹	1	0
都道	〇〇区	汚水樹	7	7
都道	〇〇区	小型汚水樹	10	10
計			10	7
区道	〇〇区	汚水樹	2	2
区道	〇〇区	小型汚水樹	2	2
計			2	2

東京都下水道局	
占用者名	〇〇下水道事務所工事課〇課工事担当
下水道番号	〇〇〇〇
都道番号	〇〇-〇〇
都道整理番号	〇-〇〇〇
区道番号	—
工期	(自) 〇〇〇〇年〇月〇日
	(至) 〇〇〇〇年〇月〇日
区道	占用許可番号 〇〇〇〇第〇〇号
	占用許可年月日 〇〇〇〇年〇月〇日
都道	占用許可番号 〇〇〇〇第〇〇〇号
	占用許可年月日 〇〇〇〇年〇月〇日

水準基準	
区	〇〇区
町名	〇〇丁目〇〇
目録	〇〇
真高 (m)	〇.〇〇〇〇
備考	東京湾平均海面

案内図



- 註
- 一、管きよ布設及び人孔、ます、構造等特に設計図に記入の無いものについては東京都下水道設計標準によった。
 - 一、埋戻し方法 全路線、改良土埋戻しとした。
 - 一、道路復旧方法 全路線、自費復旧とする。
 - 一、路面覆工 閉削路線は、全て路面覆工とする。
 - 一、樹及び取付管 取付管は、下水道用硬質塩化ビニル管とした。在来雨水枒取付管及び既設活用汚水樹取付管は、本管掘削内のみ撤去新設とした。汚水樹・取付管一覧表内の小型汚水樹は、小型汚水樹(L形用)である。
 - 一、人孔番号は、本工事内の通し番号及びSEMS番号を記載した。
 - 一、人孔のSEMS番号は、東京都公共下水道施設管理図で使用する番号である。
 - 一、図面に表示のない人孔蓋は、都型標準蓋 (T-20) を使用した。
 - 一、人孔蓋の取替は蓋、枠、調整コンクリートの取替えとした。
 - 一、足掛金物の取替えは、二次製品部分は機械施工とし、その他は人力施工とした。
 - 一、耐震化工事の施工内容は、耐震化一覧表によった。
 - 一、使用している管理図 (二〇〇〇分の一) は、令和〇年〇月版によった。
- 一、施工区分
- ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 - 路線は、深夜間施工とし、その他の路線は昼間施工とする。
- 一、施工方法
- ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 - ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 - ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 - ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
- 一、管きよ内面被覆工法 (反転・形成工法) の呼び径について 既設管内径250mm~400mmの呼び径は、〇〇工法は、A種材表示とし、〇〇工法は、B種材の表示とした。
- 一、新設の鉄筋コンクリート管は全てERPとした。ERPはスーパーアッシュを利用した管きよであることを示す。
- 一、新設の組立人孔は全てERMとした。ERMはスーパーアッシュを利用した人孔であることを示す。

工事件名	〇〇区〇〇、〇丁目付近再構築工事 完了図		
工事年度	2025年度	2026年度	工事番号 〇〇〇〇第〇〇〇〇号
完了日	2026年〇月〇日		
図面名称	系統図 案内図		
図面番号	〇〇		

受注者	株式会社〇〇〇〇
現場代理人	〇〇〇〇

図-13 系統図 記載例 (1)

・設計図に記載されたもののうち、施工区分、道路復旧方法、路面覆工、仮設工を除いた施工方法、使用材料について記載する。文章は過去形で記載する。

・凡例

提案路線は実施路線とする。表示しない他企業埋設物の凡例は記載しない。

・完了数量表

内面被覆工法等で施工した場合は、管種欄に工法名を記入する。

※朱書きは設計図から完了図を作成する際の追記・削除する箇所を示す

工事内管きよ集計表

工事内管きよ集計表			
管きよの名称	施工年度	管径 (mm)	延長 (m)
既設活用管きよ	—	250	124.70
既設活用管きよ	—	350	152.80
既設活用管きよ	—	400	58.60
既設活用管きよ	—	450	70.05
既設活用管きよ	—	500	136.30
既設活用管きよ	—	600	144.90
既設活用管きよ	—	700	196.15
既設活用管きよ	—	800	139.80
既設活用管きよ	—	900	57.30
既設活用管きよ	—	1000	117.05
既設活用管きよ	—	1100	82.25
既設活用管きよ	—	1110	35.10
計			1315.00
更生管きよ	2005	230 (250)	44.90
更生管きよ	2005	280 (300)	32.00
更生管きよ	2005	320 (350)	45.00
更生管きよ	2005	360 (400)	61.95
更生管きよ	2005	370 (400)	17.95
更生管きよ	2005	460 (500)	48.00
更生管きよ	2005	640 (700)	24.00
更生管きよ	2005	820 (1000)	34.10
更生管きよ	2005	1100 (1200)	23.85
小計			331.75
合計			331.75
布設替管きよ	—	300	19.40
布設替管きよ	—	700	62.15
小計			81.55
総計			1728.30
撤去管	2005	400	19.40
撤去管	2005	700	62.15
小計			81.55
合計			81.55

工事内管きよ番号表

工事内管きよ番号表 (再構築下水道管きよ)						
路線番号	区分	施工年度	管種	管径 (mm)	延長 (m)	工事内容
RA-1	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	350	51.10	
RA-2	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	500	41.55	
RA-3	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	500	49.70	
RB-4	更生管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	460	48.00	〇〇※※工法
RA-5	既設活用管きよ	2005	硬質塩化ビニル管	250	59.40	
RD-6	布設替管きよ	—	硬質塩化ビニル管	300	19.40	90° 砂基礎 (ii)
RA-7	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	700	58.90	
RA-8	既設活用管きよ	2005	硬質塩化ビニル管	350	59.95	
RB-9	更生管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	360	29.90	〇〇※※工法
RA-10	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	800	41.80	
RA-11	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	800	42.00	
RB-12	更生管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	280	32.00	〇〇※※工法
RB-13	更生管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	360	32.05	〇〇※※工法
RB-14	更生管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	820	34.10	〇〇※※工法
RA-15	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	1000	73.00	
RA-16-1	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	1000	32.85	
RA-16-2	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	1000	11.20	
RA-17	既設活用管きよ	2005	硬質塩化ビニル管	350	41.75	
RA-18	既設活用管きよ	2005	硬質塩化ビニル管	450	46.15	
RA-19	既設活用管きよ	2005	硬質塩化ビニル管	450	13.90	
RA-20	既設活用管きよ	2005	硬質塩化ビニル管	500	45.05	
RA-21	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	600	44.95	
RA-22	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	600	44.95	
RD-23-1	布設替管きよ	—	鉄筋コンクリート管	700	57.75	梯子鋼木 (B形) 基礎 B形 1種管
RD-23-2	布設替管きよ	—	鉄筋コンクリート管	700	4.40	梯子鋼木 (B形) 基礎 B形 1種管
RA-24	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	700	14.75	
RB-25	更生管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	640	24.00	〇〇※※工法
RA-26	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	700	34.45	
RA-27	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	1100	82.25	
RA-28	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	250	42.25	
RA-29-1	既設活用管きよ	2001	硬質塩化ビニル管	250	1.65	
RA-29-2	既設活用管きよ	2001	硬質塩化ビニル管	250	7.35	
RA-30	既設活用管きよ	2001	硬質塩化ビニル管	250	14.05	
RA-31	既設活用管きよ	2001	硬質塩化ビニル管	400	58.60	
RA-32-1	既設活用管きよ	2001	硬質塩化ビニル管	450	7.70	
RA-32-2	既設活用管きよ	2001	硬質塩化ビニル管	450	2.30	
RA-33	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	600	55.00	
RA-34	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	700	44.00	
RA-35	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	700	44.05	
RB-36	更生管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	320	45.00	〇〇※※工法
RB-37	更生管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	370	17.95	〇〇※※工法
RA-38	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	800	56.00	
RA-39	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	900	38.00	
RA-40-1	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	900	8.00	
RA-40-2	既設活用管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	900	11.30	
RB-41	更生管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	1100	23.85	〇〇※※工法
RB-42	更生管きよ	2005	鉄筋コンクリート管	230	44.90	〇〇※※工法
RA-43	既設活用管きよ	2005	更生管 (鉄筋コンクリート管)	1110	35.10	
合計					1728.30	

工事内管きよ番号表 (撤去管)						
路線番号	区分	施工年度	管種	管径 (mm)	延長 (m)	工事内容
RE-6	撤去管	2005	鉄筋コンクリート管	400	19.40	
RE-23-1	撤去管	2005	鉄筋コンクリート管	700	57.75	
RE-23-2	撤去管	2005	鉄筋コンクリート管	700	4.40	
合計					81.55	

工事件名	〇〇区〇〇、〇丁目付近再構築工事 完了図		
工事年度	2025年度	工事番号	〇〇〇〇第〇〇〇〇号
完了日	2026年〇月〇日		
図面名称	工事内管きよ集計表 工事内管きよ番号表		
図面番号	〇〇		
受注者	株式会社〇〇〇〇		
現場代理人	〇〇〇〇		
東京都下水道局			

・工事内管きよ番号表 (再構築管渠、改良管渠)
※※内面被覆工法等で施工した場合は、工事内容欄に工法名を記入する。



図-14 系統図 記載例 (2)

※朱書きは設計図から完了図を作成する際の追記・削除する箇所を示す

工事内人孔番号表

工事内人孔番号表 (再構築人孔)					
人孔番号	区分	人孔形状	SEMIS番号	人孔深 (m)	工事内容
MB-1	改造	円形人孔内径90	000028032	1.70	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-2	改造	円形人孔内径90	000038004	2.13	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-3	改造	円形人孔内径90	000038006	2.29	コンクリート蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-4	改造	円形人孔内径90	000038006	2.91	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-5	改造	組立円形人孔内径90	000040026	1.83	
MB-6	改造	組立円形人孔内径90	000030043	2.45	既設インバート改造
MB-7	改造	円形人孔内径150丁	000030044	4.56	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-8	改造	組立円形人孔内径90	000048037	2.66	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-9	改造	円形人孔内径90	000048038	1.83	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-10	改造	円形人孔内径150丁	000038007	4.38	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-11	改造	円形人孔内径150丁	000048039	3.29	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-12	改造	円形人孔内径90	000048040	2.85	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-13	改造	円形人孔内径90	000048041	2.65	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-14	改造	円形人孔内径200	000048042	2.72	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-15	改造	円形人孔内径150丙	000048043	2.66	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-16-1	改造	円形人孔内径180	000048044	2.42	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-17	改造	組立円形人孔内径90	000040027	2.24	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-18	改造	組立円形人孔内径90	000048031	2.41	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-19	改造	組立円形人孔内径90	000048032	2.35	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-20	改造	円形人孔内径90	000048033	2.37	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-21	改造	円形人孔内径90	000048034	2.05	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-22	改造	円形人孔内径90	000048035	2.12	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-23-1	新設	組立円形人孔内径120B	000048037	2.82	組立マンホール (〇〇〇※※)
MB-24	改造	円形人孔内径120丁	000040022	2.78	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm・T-25) 新設
MB-25	改造	円形人孔内径120丙	000040023	2.68	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-26	改造	円形人孔内径120丙	000040024	3.56	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-27	改造	円形人孔内径200	000040025	3.06	
MA-29-1	既設	都型組立矩形人孔内法120×60	000028033	3.24	
MB-30	改造	組立円形人孔内径120A	000028025	4.75	
MB-31	改造	特殊人孔内法90×105	000028027	4.24	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-32-1	改造	特殊人孔内法90×105	000028028	1.78	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-33	改造	組立円形人孔内径90	000028034	1.92	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-34	改造	組立円形人孔内径150	000038008	2.07	既設インバート改造
MB-35	改造	組立円形人孔内径150B	000038009	2.65	
MB-36	改造	組立円形人孔内径90	000038010	1.72	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-37	改造	組立円形人孔内径90	000038011	1.71	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-38	改造	組立円形人孔内径150B	000038012	2.67	鉄蓋 (内径75cm) 撤去 鉄蓋 (親子蓋) 新設
MB-39	改造	組立円形人孔内径120B	000038013	2.47	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-40-1	改造	組立円形人孔内径120B	000030034	2.38	鉄蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-41	改造	特殊人孔内法160×160	000030035	2.62	
MB-42	改造	組立円形人孔内径90	000030036	1.23	コンクリート蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設
MB-43	改造	円形人孔内径220	000030037	2.98	コンクリート蓋 (内径60cm) 撤去 鉄蓋 (内径60cm) 新設 既設インバート改造

工事内人孔番号表 (撤去人孔)					
人孔番号	区分	人孔形状	SEMIS番号	人孔深 (m)	工事内容
ME-23-1	撤去	円形人孔内径120丙	000048036	2.74	

工事件名	〇〇区〇〇、〇丁目付近再構築工事 完了図		
工事年度	2025年度 2026年度	工事番号	〇〇〇〇第〇〇〇〇号
完了図	完了日	2026年〇月〇日	
	図面名称	工事内人孔番号表	
	図面番号		
受注者	株式会社〇〇〇〇		
現場代理人	〇〇〇〇		
東京都下水道局			

- ・工事内人孔番号表 (再構築人孔、改良人孔)
※※組立人孔を新設した場合は、工事内容欄に器材名を記入する。
- ・工事内人孔番号表には新規取得したSEMIS番号を記入する。

図-15 系統図 記載例 (3)

※朱書きは設計図から完了図を作成する際の追記・削除する箇所を示す

汚水樹・取付管一覧表

図面番号	人孔番号 又は 路線番号	接続 位置 (m)	占用幅 (m)	汚水樹			取付管							
				樹番号	樹の種類	樹深さ (m)	工事内容	既設		新設又は布設替え		工事内容		
								既設	新設又は取替え	管径	管種		管径	管種
6/20	RA-8	25.70	6.60	8-3A	汚水樹内径50	1.19		200	硬質塩化ビニル管					
6/20	RA-8	40.30	6.60	8-6A	汚水樹内径50	1.13		200	硬質塩化ビニル管					
7/20	RA-10	14.20	7.15	10-2A	円形人孔内径90	2.06		200	鉄筋コンクリート管	190	〇〇〇※工法	改良 L=7.15		
7/20	RA-10	17.80	8.55	10-4A	円形人孔内径90	2.85		200	鉄筋コンクリート管	190	〇〇〇※工法	改良 L=8.55		
7/20	RA-10	34.85	8.55	10-7A	円形人孔内径90	2.32		200	硬質塩化ビニル管					
7/20	RA-10	40.15	7.15	10-8A	円形人孔内径90	2.12		200	鉄筋コンクリート管	200	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=7.15		
7/20	RA-11	6.80	8.45	11-2A	円形人孔内径90	2.06		250	硬質塩化ビニル管					
7/20	RA-11	16.20	8.45	11-4E	樹無し(汚水)			150	陶管			撤去 L=8.45		
8/20	RB-13	10.50	7.30	13-1A	汚水樹内径70	1.49		200	硬質塩化ビニル管					
8/20	RB-13	13.30	7.55	13-2A	小型汚水樹模型(歩道用)	1.16		200	硬質塩化ビニル管					
7/20	RA-15	6.55	7.55	15-2A	小型汚水樹模型(歩道用)	1.30		150	硬質塩化ビニル管					
7/20	RA-15	25.10	7.45	15-5D	汚水樹内径50	1.00	撤去・新設	150	硬質塩化ビニル管					
7/20	RA-15	40.50	7.45	15-8A	小型汚水樹模型(歩道用)	1.43		150	硬質塩化ビニル管					
7/20	RA-15	49.25	7.55	15-9A	小型汚水樹模型(歩道用)	1.00		200	硬質塩化ビニル管					
7/20	RA-16-1	2.95	7.45	16-2A	小型汚水樹模型(歩道用)	1.73		200	硬質塩化ビニル管					
9/20	RA-18	36.90	8.40	18-5A	汚水樹内径70	1.58		200	硬質塩化ビニル管					
9/20	RA-20	1.82	7.00	20-1E	樹無し(汚水)			150	陶管			撤去 L=7.00		
9/20	RD-23-1	27.30	7.20	23-3A	小型汚水樹模型(歩道用)	1.95		150	硬質塩化ビニル管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=7.20		
9/20	RD-23-1	30.75	7.20	23-4C	樹無し(汚水)	0.80	新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=7.20		
9/20	RD-23-2	0.95	12.80	23-9C	樹無し(汚水)	0.80	新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=12.80		
10/20	RA-26	24.50	8.00	26-2D	汚水樹内径50	1.40	撤去・新設	250	硬質塩化ビニル管					
10/20	RA-26	28.25	8.00	26-3C	樹無し(汚水)	0.80	新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=8.00		
10/20	RA-27	27.10	4.05	27-3D	汚水樹内径50	1.00	撤去・新設	150	硬質塩化ビニル管					
10/20	RA-27	51.70	4.05	27-5A	小型汚水樹模型(歩道用)	2.01		200	硬質塩化ビニル管					
11/20	RA-31	29.25	4.00	31-3E	汚水樹内径50	0.77	撤去	200	硬質塩化ビニル管			撤去 L=4.00		
12/20	RA-33	19.40	5.30	33-3A	汚水樹内径50	1.36		150	硬質塩化ビニル管					
12/20	RA-33	31.00	5.30	33-5A	汚水樹内径70	1.60		250	硬質塩化ビニル管					
12/20	MB-34	—	4.75	34-1A	円形人孔内径90	1.94		400	硬質塩化ビニル管					
12/20	MB-35	—	4.80	35-1A	円形人孔内径90	2.02		400	硬質塩化ビニル管					
12/20	RA-35	10.50	5.35	35-3A	汚水樹内径70	1.05		250	硬質塩化ビニル管					
12/20	RB-36	34.15	7.35	36-5D	汚水樹内径50	1.00	撤去・新設	150	硬質塩化ビニル管					
13/20	RA-38	5.00	7.65	38-1C	樹無し(汚水)	0.80	新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=7.65		
13/20	RA-38	51.05	7.65	38-7A	円形人孔内径90	2.00		250	鉄筋コンクリート管	250	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=7.65		
13/20	RA-39	2.75	6.80	39-1D	汚水樹内径50	1.00	撤去・新設	150	硬質塩化ビニル管					
13/20	RA-39	4.20	7.65	39-2A	小型汚水樹模型(歩道用)	1.92		150	硬質塩化ビニル管					
13/20	RA-39	21.50	6.80	39-5A	小型汚水樹模型(歩道用)	0.89		150	硬質塩化ビニル管					
13/20	RA-39	35.90	7.65	39-8A	小型汚水樹模型(歩道用)	0.75		200	硬質塩化ビニル管					
13/20	RA-40-1	2.40	7.40	40-1D	汚水樹内径50	1.20	撤去・新設	150	硬質塩化ビニル管					
13/20	RB-42	2.10	3.80	42-1D	汚水樹内径50	1.20	撤去・新設	200	硬質塩化ビニル管					

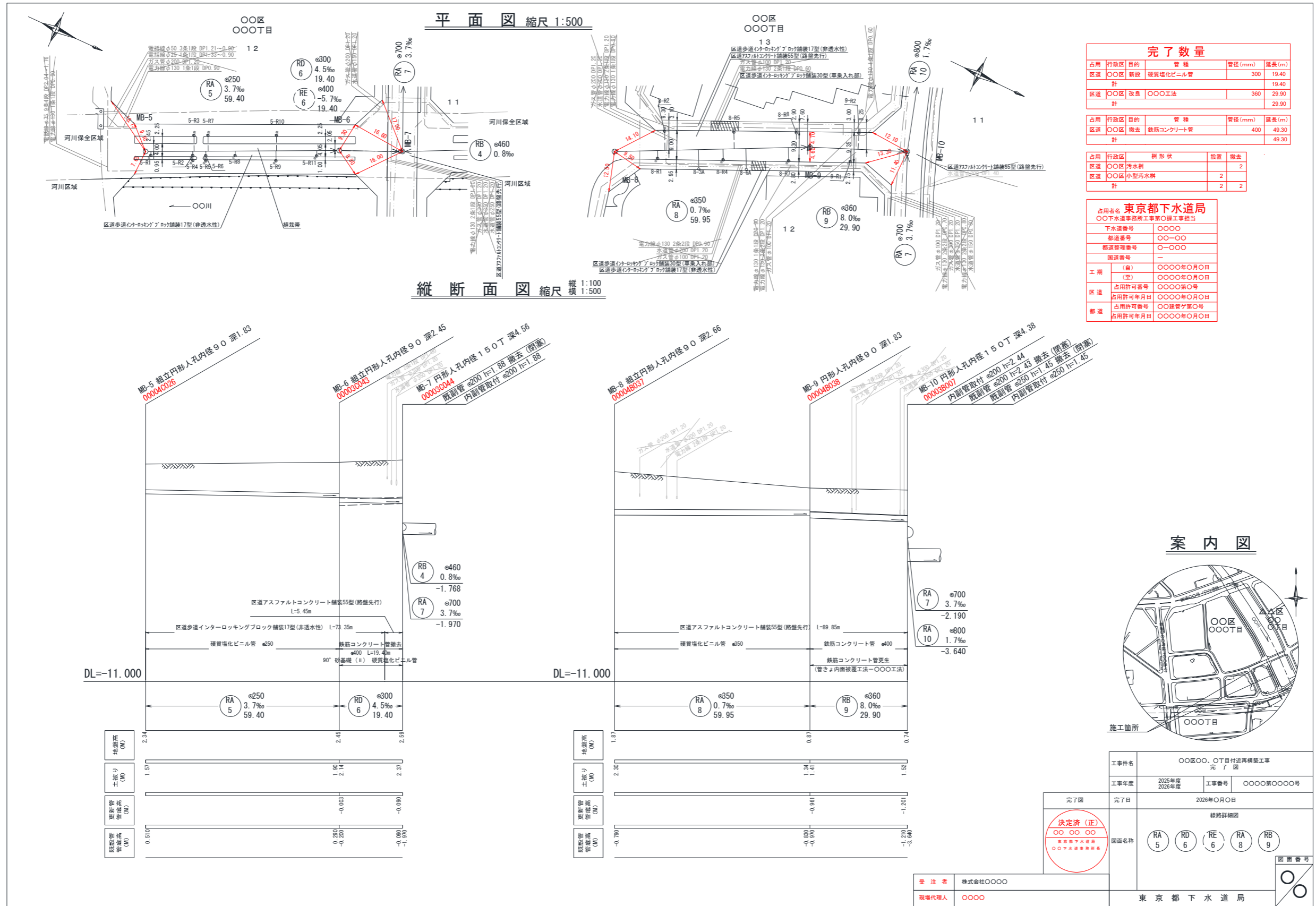
・汚水樹・取付管一覧表

※※取付管内面被覆工法等で施工した場合は、管種欄に工法名を記入する。

工事件名		〇〇区〇〇、〇丁目付近再構築工事 完了図	
工事年度	2025年度 2026年度	工事番号	〇〇〇〇第〇〇〇〇号
完了図	完了日	2026年〇月〇日	
決定済(正) 〇〇.〇〇.〇〇 東京都下水道局 〇〇下水道事務所		図面名称	汚水樹・取付管一覧表
受注者	株式会社〇〇〇〇		
現場代理人	〇〇〇〇		
		東京都下水道局	図面番号 〇〇

図-16 系統図 記載例 (4)

※未書きは設計図から完了図を作成する際の追記・削除する箇所を示す



・線路詳細図
 縦断面に記載する人孔番号は、設計時点の番号と新規取得したSEMIS番号を並記する。
 平面図には舗装種別の記入は必ずしも要しない。
 他企業埋設管は、記入しない。ただし、他企業及び当局の地下埋設物の原因により、伏越し管となった場合は、別途記入する。

図-17 線路詳細図 記載例

管きょ工事 完了図作成基準

令和8年4月

編集 東京都下水道局 計画調整部 技術開発課
施設管理部 管路管理課
建設部 工務課